

第1回 伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会 議事録

【開催日時】 平成29年6月21日（水）13:30～15:30

【開催場所】 伊達市役所保原本庁舎 2階 庁議室

【出席者】（五十順、敬称略）

（委員）

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| ・ 在宅介護支援ネットワークおりおりの会 | 小野寺 敏 |
| ・ 福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 | 日下 輝美 |
| ・ パナホーム株式会社 分譲事業推進部事業開発グループ | 桑田 和伸 |
| ・ 福島県宅建協会 伊達支部 | 斎藤 信雄 |
| ・ 公益財団法人仁泉会 | 佐藤 欣也（代理出席：松川） |
| ・ 一般社団法人伊達市観光物産交流協会 | 佐藤 聡子 |
| ・ 社会福祉法人伊達市社会福祉協議会 | 佐藤 由美 |
| ・ 株式会社東邦銀行 | 三瓶 洋一 |
| ・ 福島県北地方振興局 | 須藤 幹子 |
| ・ 一般社団法人伊達医師会 | 中野 新一 |
| ・ ふくしま未来農業協同組合 | 舟山 悦雄 |
| ・ 福島大学 人間発達文化学類 | 牧田 実 |
| ・ 福島信用金庫 | 三浦 哲也 |
| ・ 伊達市保原地域包括支援センター | 森 美樹 |

（伊達市）

- | | |
|---------|--------|
| ・ 伊達市市長 | 仁志田 昇司 |
|---------|--------|

（事務局）

- | | |
|--------------------------|--------|
| ・ 伊達市市長直轄理事 | 半澤 隆宏 |
| ・ 伊達市市長直轄地域創生担当理事 | 宮崎 雄介 |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課長 | 半澤 哲史 |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課副主幹兼地域創生係長 | 菅野 公宏 |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主査 | 長谷川 徳也 |

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 資料1 伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会設置要綱
- ・ 資料2 伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会委員名簿
- ・ 資料3 「伊達市版生涯活躍のまち構想」を踏まえた実施計画策定について
- ・ 資料4 ゆいま～る那須の視察報告
- ・ 参考資料 伊達市版生涯活躍のまち構想、概要版
- ・ 参考資料 地域再生計画

1. 開会

- ・ 事務局より開会のあいさつを行った。

2. 委嘱状交付

- ・ 事務局（半澤哲史）：

次第2、伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会委員に就任いただく皆様に委嘱状を交付いたします。佐藤欣也様は、本日所用によりご欠席でございますので、代理出席をいただいております松川様にお渡しいたします。遅れて出席される森美樹様につきましては、追って、委嘱状を交付いたします。

- ・ 仁志田市長より、小野寺敏氏、日下輝美氏、桑田和伸氏、斎藤信雄氏、佐藤欣也氏の代理人 松川氏、佐藤聡子氏、佐藤由美氏、三瓶洋一氏、須藤幹子氏、中野新一氏、舟山悦雄氏、牧田実氏、三浦哲也氏に委託状を交付した。

- ・ 事務局（半澤哲史）：
ありがとうございました。続きまして、仁志田市長よりごあいさつ申し上げます。

3. 市長あいさつ

- ・ 仁志田市長よりあいさつを行った。
- ・ 仁志田市長：

伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会委員の皆様、本日はご多忙のところお集まりいただきまして、また、委員にご就任いただき、誠にありがとうございます。お忙しいとは思いますが、伊達市だけでなく、社会にとっても大変重大な課題でございますので、よろしくお願い申し上げます。

昨年度に、推進協議会に助言いただいて策定した基本構想の実現ということで、本年度から生涯活躍のまち形成に向けた取組を加速することになります。人口減少、高齢化社会の中で、当市においても地方創生に向けた事業の実施が求められております。そのような中で、伊達市版生涯活躍のまち構想は、最も重要な施策と考えております。当市の生涯活躍のまちづくりについて、地域再生計画として平成 29 年 5 月 30 日に内閣総理大臣から認定を受けましたが、これからどう進めるかが問題です。少子高齢、人口減少自体が日本社会にとって初めてですし、特に高齢化社会に向けて、生涯活躍でき、安心して年をとれる社会を目指すための具体策が課題です。伊達市における具体策としては、高子駅北地区で約 400 戸の住宅開発を計画しております。民間住宅開発ですが、そのうちの 100 戸を伊達市版 CCRC として、行政が推進主体を担いつつ、民間の住宅開発の力や福祉関係の力をお借りして、取り組むことを考えております。

伊達市でも、「健幸都市」の施策を進める中で、高齢者のひとり暮らしや二人暮らしの世帯の割合が増え、そして後期高齢者の割合も増え、介護の支援を必要とする方も増えております。介護や農業、商業などの分野で人手不足となっている中で、どのような社会を築いていくのが課題です。

また東京では、人口の一極集中が問題となっており、いかに地方へ人を移動させるが課題となっております。東京は人口が多いだけに、場所や人手が足りないため、ケアや介護を必要とする人にお金があっても、すべては受け入れてもらえないそうです。新聞によれば、東京都杉並区は静岡県南伊豆町と協議を行い、杉並区の特別養護老人ホームを南伊豆町に建設するようです。

我々は現在、高子駅北地区で CCRC を考えておりますが、将来的には伊達市全体で元気な高齢者が若者に代わって、伊達市の社会を支えていくことを考えています。そのためにも、我々は共助社会を作っていかなばなりません。大家族がある時代は、血縁関係による家族間の共助がありましたが、核家族化が進み、子どもと一緒に住んでいない、子どもが遠くに住んでいるケースが増えていきます。残った親は高齢者二人暮らしで、ついにはひとり暮らしになってしまいます。伊達市に住んでいるそのような人たちに対して、子どもに代わり、地域社会でケアをしていきたいと考えております。例えば、世代間支援を地域で円滑に行えるような仕組みとして、地域通貨を考えております。先行事例の良い部分は取り入れつつ、様々な取組を行い、伊達市版生涯活躍のまちを実現していきたいと考えております。

CCRC の運営推進協議会の委員の皆様におきましては、委員という立場で色々ご指導いただけると幸いです。お忙しいとは思いますが、社会全体の問題であり、私も自分自身の問題とって取り組んでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 自己紹介

- ・ 事務局（半澤哲史）：次第4、委員のご紹介に移ります。次第裏面、「伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会委員名簿」をご覧ください。委員は総勢14名で構成されております。名簿順に自己紹介をお願いします。

～自己紹介～

5. 会長選出

- ・ 事務局（半澤哲史）：
次第5、会長選出に入りたいと思います。資料1「伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会設置要綱」第5条に基づき、互選によって決定します。立候補または推薦等がございますか。
- ・ 中野：
事務局一任をお願いします。
- ・ 事務局（半澤哲史）：
「事務局一任」とありました。それでは、会長を牧田委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。
- ・ 委員一同：
異議なし。
- ・ 事務局（半澤哲史）：
それでは、福島大学教授牧田実様、会長就任をお願いいたします。それでは、会長に就任されました牧田委員より、就任のごあいさつをお願いいたします。
- ・ 牧田会長：
会長を仰せつかりました福島大学の牧田です。昨年引き続き、会長を務めさせていただきます。CCRCという馴染みのない言葉ですが、新しく委員になられた方もいらっしゃると思いますので、経緯を含めてこの後お話があると思います。共助社会、コミュニティケアを基本に見据え、単なる施設作りで終わらないということです。私の役目は、まちづくりの視点で、様々な分野から活発な意見を引き出すことと思っています。皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。
- ・ 事務局（半澤哲史）：
ありがとうございました。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

6. 議事

1. 職務代理者の指定

- ・ 牧田会長：
要綱第5条第2項の規定に基づき、日下委員、中野委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
- ・ 委員一同：
異議なし。
- ・ 牧田会長：
それでは、日下委員、中野委員、よろしくお願ひいたします。

2. 会議の公開について

- ・ 牧田会長：
会議の公開について、事務局より説明をお願いします。
- ・ 事務局（長谷川）：
本協議会の会議録を作成するため、会議内容を録音しております。発言された委員名を含め、会議内容の要約を市のホームページ等で公表させていただきます。

3. 協議会における検討内容と進め方について

- ・ 牧田会長：
議事6の「(3) 協議会における検討内容と進め方について」を事務局より説明をお願いします。
- ・ 事務局（三菱総合研究所田村）より資料3（14～16 ページ除く）の説明を行った。
- ・ 事務局（長谷川）より資料3の14～16 ページ、資料4の説明を行った。
牧田会長：
委員の皆様、ご意見がございましたら、発言をお願いします。私からは、昨年までの協議会の中では、高子という具体的な地名は出ていなかったが、今回は急に高子ありきの話になっています。経緯についてご説明いただきたい。
- ・ 事務局（宮崎）：
昨年度の基本構想策定では、地方版総合戦略で、生涯活躍のまちを1箇所以上作るという目標があり、それに沿って市内の各地区の特色を活かして何ができるかを幅広く検討したところです。今年度、最初から高子に決めている点については、高子で民間による住宅開発が進んでおり、その動きが具体的になってきたということや、デベロッパーや地区の方と話し合いをする中で CCRC を置ける可能性がかなり具体的になってきたことがあります。将来、高子が成功したら、基本構想に立ち戻り、他の地区でも CCRC を実現していきたいと考えております。
- ・ 中野委員：
資料3のP. 4の地域別方針についても、保原地域は高子地域に特化しているという理解でよろしいでしょうか。また、高子が上手くいけば、他の地区も検討されるということですか。
- ・ 事務局（宮崎）：
仰る通りです。
- ・ 牧田会長：
資料4のP. 2「ゆいま～る那須」の説明で、併設施設に「ニューロクリニック」と記載がありますが、協力医療機関であり、「ゆいま～る那須」に併設されているわけではありませんので、誤解を招くかと思えます。代わりに、併設施設としてデイサービスがあります。また、P. 5の総括に「特別養護老人ホームが併設されている」という記載についても、「ゆいま～る那須」の話ではないと思います。他の「ゆいま～る」にあるかと思えますので、事実関係を調べてください。
- ・ 事務局（宮崎）：
承知いたしました。

- ・ 日下委員：

市長から地域通貨の話がありましたが、その範囲は市内全体ではなく、CCRC のコミュニティだけということでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：

今年度は、モデル事業として市内 4 箇所地域通貨を導入します。
- ・ 日下委員：

町内単位の小さなコミュニティでは、需要と供給のバランスが取れないのではないのでしょうか。他の自治体の事例を研究したほうがよいかと思います。このコミュニティの規模ではうまくいかないことを懸念しております。
- ・ 事務局（宮崎）：

次回、地域通貨のモデル事業の例をご説明いたします。

- ・ 小野寺委員：

「ゆいま〜る那須」の入居率はどのくらいでしょうか。高子地区の CCRC では、具体的にどの程度の規模を考えているのでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：

70 戸のほとんどが埋まっている状況だそうです。「ゆいま〜る那須」を運営する株式会社コミュニティネットは、全国的なネットワーク組織として、移住希望者のリストを独自に持っており、その中から希望者を募って説明会等を行ったようです。我々もコミュニティネットなどの事業者に参加していただければ、そういった仕組みを利用できるかもしれません。

- ・ 三瓶委員：

資料 3 の P. 15 について、A 地区にアクティブシニア向けに CCRC を 100 戸建てる議論がありますが、一方で、地域一帯を開発することが必要と思います。というのも、一度に 60 代ばかりが入居すると、将来、一帯が空き家になってしまう可能性もあるからです。他の民間事業者が進めている他の地区の開発状況も、計画に考慮する必要があると思います。
- ・ 事務局（宮崎）：

まだ決まっておりませんが、おそらく A 地区はいわゆる一般的な住宅地域となり、C 地区の南側が CCRC 用として開発する想定です。仰る通り、入居者が一挙にいなくなってしまうことは考えられるので、CCRC の運営形態についても賃貸にするか、販売にするのかの検討と、区画整理事業の進行状況は随時共有いたします。

- ・ 須藤委員：

資料 3 の P. 24 で、今年度の最後のテーマは「最終とりまとめ」となっていますが、P. 23 では、推進協議会は平成 30 年度まで続くとなっています。平成 30 年度の推進協議会の進め方はどのように考えておられますか。
- ・ 事務局（宮崎）：

資料 1 「伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会設置要綱」第 2 条のとおり、「(1) 伊達市版生涯

活躍のまち実施計画の検討に関すること」が現段階です。将来的に協議会は存続し、(2)と(3)にあるとおり、進捗状況や運営状況を議論いただきたいと考えております。

- ・ 舟山委員：
高子地域の100戸というのは、サービス付き高齢者向け住宅（以下、サ高住）でしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：
サ高住にするかどうかは、補助金や入居者像、運営事業者の方針もありますので、まだ決まっておられません。住宅の種類について、メリットとデメリットを整理した上で検討してまいります。
- ・ 森委員：
メリットやデメリットについても、協議会で検討するのでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：
補助金やメリットとデメリットについて調査し、結果をお示ししてご意見いただいた上で検討いたします。

- ・ 森委員：
高齢者だけが暮らすような区画にすると、将来その区画だけ空き家になってしまう恐れもあるので、区画で分けられない方法がよいのではないのでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：
区割りは市で変えられない為、高齢者が孤立しない仕組み、世代が循環される仕組みを検討したいと考えております。

- ・ 牧田会長：
委員全員から、感想でも構いませんし、日頃のご自分の活動やビジネスと関連させて、ご意見等いただきたいと思っております。

- ・ 小野寺委員：
NPO 法人在宅介護支援ネットワークおりの会の代表を務めています。在宅介護を頑張っている専門家の方、要介護者のご家族の方を支援するためにNPO 法人を立ち上げました。どのような形であればサービス、ボランティアをずっと続けられるかを考え、法人参加型で設立いたしました。私の会社の社員でいる限りは、NPO 法人おりの会の会員としてボランティアをする仕組みになっています。高子地区でも、法人参加型のNPO の仕組みを検討してはいかがでしょうか。

- ・ 糸田委員：
高子地区であれば、我々の協議会の業務と繋がる所になり、行動し易いと思っています。施設や事業者の選定については、協議会、伊達市を異業界の枠として活かし、広く公募することで、集まりやすいのではないかと思います。一方で、高子は便利施設があまりないエリアなので、そういった施設を充実させることが必要だと思います。400戸のうち300戸は一般向けの住宅になり、ビジネス的にも大きな市場規模ですので、魅力づけが必要かと思っております。

- ・ 斎藤委員：
資料3のP.9に空き家の分布がありますが、都会の人と話をするとう農地法の問題が出て来ます。高子地域は農地法をクリアしているということでしょうか。所有権を移転できるような方法を検討していただきたいです。他県ではそういうことが進んでいるという話も聞いております。
- ・ 松川代理：
今回400戸のうち100戸がCCRCということですが、協議会としては100戸をどうするかではなく、400戸全体としてまちづくりを考えるということでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：
100戸中心を考えると自然と300戸のことも考える必要が出てきます。CCRCから半径2km以内の近隣施設も資源として考えていきたいです。
- ・ 松川代理：
今後について、できる限りスケジュールを調整して出席したいので、年間スケジュールを早めに決めていただきたいです。
- ・ 事務局（宮崎）：
皆様にお伺いした上で、事務局で年間のスケジュールを決めたいと思います。
- ・ 佐藤（聡）委員：
「ゆいま〜る」の資料を拝見する限り、とてもスムーズな移住をされた印象ですが、実際に入居してみたらだめだった、というケースは実際にはあったのでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：
体調の関係で退去された方はいらっしゃったそうですが、もともと移住希望の強い方をターゲットにし能動的に係わるプロセスがあった為、ミスマッチはあまりなかったと思われます。ただ、一般的には起こりうることだと思うので、留意事項と思います。
- ・ 佐藤（聡）委員：
「ゆいま〜る那須」は、空室が出るまで順番待ちのような状況でしょうか。申込みは随時行っているのでしょうか。
- ・ 事務局（宮崎）：
現在は、空室が出る度に、募集をしているようです。
- ・ 佐藤（聡）委員：
観光物産交流協会の立場から申し上げますと、歴史観光や果樹などをPRしながら、東京方面からの集客のために様々なツアーを企画し、周知していきたいと思っております。現在、様々な地域の方々と連携して様々な企画や事業を進めており、生涯活躍のまちが完成したら連携していければ良いと思っております。
- ・ 佐藤（由）委員：
資料3のP.13「商業施設等の立地」が気になっています。「ゆいま〜る那須」にもコープ等が移動販売していましたが、入居者が徒歩圏内での買い物ができる環境もほしいと思います。交通機関の整備についても検討する必要があると感じます。また、最近は無理な受け入れを要因としたサ高住

の事故が多くなっていると聞きます。1地区に100戸のサ高住があるのではなく、バリアフリーの街並みの中に高齢者向け住宅が点在する、といったような配慮がよいのではないのでしょうか。入居者のサポートについても、入居者間のネットワークのようなものがあるとよいと思います。

・ 三瓶委員：

リバースモーゲージは、行内でも議論されておりますので、事務局に情報共有したいと思います。また、移住・住みかえ支援機構との提携についても情報共有します。また、高子と中心市街地間の二次交通が極めて大きな問題と思っております。介護施設だけではなく、保育施設もやるのかという点も気になります。財政負担についても共有してほしいです。

・ 須藤委員：

「ゆいま〜る那須」の視察に参加し、入居者からお話を伺いました。一人暮らしの女性でしたが、最初に1000万円を払えば月10万円程度で暮らせることが魅力だったようです。東京は家賃が高く、年金収入だけになったときに生活が大変になります。田舎に來れば今の生活を維持できるような、収入を含めてターゲットを絞ることを念頭においてはどうでしょうか。また、資料3のP.22では移住PRについて記載されていますが、「ゆいま〜る那須」では有料でお試し宿泊ができるようなので、伊達市版生涯活躍のまちでも、体験事業として、お試しで宿泊施設を利用できるとよいのではないのでしょうか。

・ 舟山委員：

農協の視点でお話を聞いていましたが、就農や家庭菜園等の面で支援が可能かと思いましたが。例えば、野菜であれば栽培は比較的簡単ですが、果物は1から作ると収穫まで何年もかかります。そういったことも考慮して計画したほうがよいと思います。農協では、東日本大震災後に農家への支援や農業振興のために予算を捻出しています。そういった予算も使いながら、支援していきたいです。また、「ゆいま〜る那須」はペットと暮らせるようですが、高齢者が犬を飼えないのは、住宅問題からではなく、自身の体調等から散歩に行けなくなる懸念が主な理由かと思えます。散歩ができなくなっても、コミュニティで助け合える仕組みができれば、ペット好きの方にアピールできると思います。

・ 三浦委員：

空き家の増加や、後継者不足で農地が荒れていくことなどが今後予想されますが、コミュニティづくりの事前段階として空き家を再利用することはいい考えだと思います。現在の市内の空き家の状況を教えていただきたいです。就農の点では、コミュニティの内部に、道の駅のタウンバージョンのようなものを作って、入居者同士が互いに作った農作物を提供し合う仕組みはいかがでしょうか。ペットの話が出ましたが、コミュニティ内に共用できるペットの運動場があるとよいかと思えます。

・ 森委員：

アクティブシニアがターゲットであれば、健康寿命を伸ばせることと、体調が悪くなっても、最期のときまで支援体制があることを打ち出せるとよいのではないのでしょうか。高齢者の方が最期のと

きをイメージできるまちというのをアピールできるとよいと思います。また、300戸に関わりませんが、働く人が住みやすいまちにもできるとよいと思います。

- ・ 牧田会長：

理想形態としては、400戸全体で取組ができると生涯活躍のまちのモデルになり得ると思います。また、サ高住の場合、介護や医療の受け皿、ケアの仕方を考える必要があります。「ここに住めば最期までいることができる」という売り方ができれば、とてもよいアピールになると思います。また、様々な世代が共生できれば、保育や子育てをアクティブシニアが支援するという循環ができますので、非常に魅力的だと思います。

以上で、議事はすべて終了いたしました。円滑な進行にご協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

7. その他

- ・ 事務局（長谷川）：

次回の協議会までに、委員各位の専門分野やご所属の機関でどういったご協力をいただくことが可能かを伺いたいと考えております。

地域再生計画にもとづく地方創生推進交付金を活用して、東京圏での移住相談会の開催や、移住者向けの情報発信のホームページを作る予定です。移住者向けのホームページでどのようなことをアピールするのか、皆様にご相談させていただきたいと思います。

8. 閉会

- ・ 事務局（半澤哲史）：

本日はお忙しいところをお集まりいただき、また、長時間にわたり、ありがとうございました。これもちまして、第1回伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会を閉会いたします。

以上